

前回議論のまとめ

○ 継承すべき京都会館の建物価値をどのように考えるか

- ・ 京都会館の最大の魅力は中庭にある。中庭空間の素晴らしさをいかに継承していくかが大きなポイント（中川委員）
- ・ 第一ホールの南側から北側、平安神宮に抜ける透明感が一番好きな点（石田副委員長）
- ・ 水平庇により全体の水平構成が成され、その中に伽藍の色々な柱等がきっちりと構成されており、アプローチした時の「抜け」と「見上げ」が大きな特徴（橋本委員）
- ・ 欄干の庇、手摺の庇といった目につく京都会館らしい要素は継承していくべき。（橋本委員）
- ・ 残すべきことは庇があり、その下に影があること。京都会館の庇は残す、若しくは同様のもの再生されるべき。（岡崎委員長）
- ・ 二条通に面したピロティは圧倒的。二条通から中庭に誘い込む仕掛け、ピロティからつながる第一ホールの抜けについてもこれとつながっている。（中川委員）
- ・ 基本計画では外観は基本的に保存するようになっており、ピロティから中庭に抜けての透明感の保存や空間にはかなり配慮されている。基本的には外側を今の形で踏襲すべきではないか。（道家委員）

○ 基本設計に当たって配慮及び検討すべき点、特に第一ホールの外観デザインの考え方について

- ・ 現在の庇に囲まれて大きな伽藍を構成しているうえに、飛び出す部分のボリュームをどのようなデザインで進めていくか。（橋本委員）
- ・ 京都会館の前を歩いた時の目につく感覚、なおかつ疏水側から見た穏やかな現在の屋根形状が作り出す京都らしい風景、これらを如何に工夫しながらフライズのボリューム感を下げていくかは一つのデザインの要素と考える。（橋本委員）
- ・ フライタワーのぶどう棚までの高さ27mといった前提条件の精査が必要ではないか。（道家委員）

○ その他

- ・ 使われて価値のある建物とするためには、中途半端なことはするべきではない。（澤邊委員）
- ・ 保存と改修には様々な幅があり、建物によって一つ一つ異なる。京都会館におけるこの幅を見つけてこの委員会の役割と考える。（橋本委員）
- ・ 前川先生の当時の思いを反映させながら機能には手を加え、その結果として遠い先に文化財になっていくことを目指すべき。（澤邊委員）
- ・ 総合力をもって、いいものをどう残していくかを考えていくことが必要
総合力とは建築計画と求める機能のバランスを考えることで、どういうものをつくっていくかということ及びそのための手法の幅広い検討である。（衛藤委員）